

独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

看護師募集

その人らしさを理解することから始まる。



久里浜医療センターから、あなたへ。

私たちの病院は1963(昭和38)年、日本で初めてアルコール依存症の専門病棟を設立した国立病院が前身です。患者さんの自主性を尊重した治療で全国に知られ、WHO(世界保健機関)から日本で唯一のアルコール関連問題研究・研修協力センターに指定されました。

最近ではインターネット依存症、ギャンブル依存症といった社会問題ともなる新タイプの依存症治療にも力を入れており、当院がリーダーシップを取って臨床経験や研究成果を世の中に発信しています。

依存医療に加え、司法精神医療や急性期の精神医療など専門性の高い医療を提供しています。さらに、神奈川県より認知症疾患医療センターの委託を受け、地域の認知症対策の中心的役割を担っています。

このパンフレットでは、精神科・依存症看護に興味を持ち看護師を目指す皆さんに向け、久里浜医療センターで働くことの素晴らしさをお伝えします。

Message

あなたのパーソナリティが、患者さんの自律を支えます。

看護部からのメッセージ

依存症治療の先端である臨床が、
あなた自身を高めてくれます。

久里浜医療センターは依存症などの治療で、国内最先端を進む病院です。それだけに、私たちが担っている課題はとても重要なものばかり。地域医療とのつながりも、そのひとつ。患者さんを支援する糸口を見つけるために地域との関わりを行います。地域医療構想が進められている背景もあり、私たちが精神科地域連携のモデルとなる役割もあるのです。

コミュニケーションは患者さんの気持ちを理解するための大切な技術です。それを基本に持ちながら、治療や看護への興味、専門性を追求することで、患者さんからの信頼を得られるのです。自分を高めるといふ高い意識を備え看護に取り組む姿勢が、あなたを成長させる大切な要素となります。当センターには、目標になる看護師がたくさん在籍しています。そんな先輩たちの姿を見て、生の声を聞き、専門的な指導を受けながらあなたなりの高みを目指してください。そのための環境は整っています。

久里浜医療センターの理念

当センターは、依存症全般にわたる治療、臨床研究、教育研修、予防・情報発信を軸とした高度専門医療を提供します。

看護部理念

患者さんの心に寄り添い、
患者さん自身が自立できる
看護の提供に心がけます



Medical Departments

チームワークと先端技術が、久里浜の二本柱です。

依存症（アルコール、ネット、ギャンブル）

さまざまな「依存」の治療に、
スタッフが連携して向き合います。

久里浜医療センターは、厚生労働省から依存症対策全国拠点機関に指定され、アルコール依存症、ギャンブル行動症対策の中心としての役割を担っています。

アルコール依存症は、飲酒コントロールができなくなる精神疾患であると同時に、長年の大量飲酒によって様々な生活習慣病の原因にもなります。日本の患者数は2016年の調査で、外来9.5万人、入院2.5万人で潜在的な患者数は57万人といわれています。当センターでは、常に最新のプログラムや新薬によって治療を進め、日本のアルコール依存症治療の中核として発展しています。

また近年では、インターネット依存（ネット依存）やギャンブル依存といった行動嗜癖に関する研究も盛んになってきました。インターネット使用の問題を抱える方は若年層の割合が多く、中高生の6人に1人という統計もあります。日本の将来に大きな問題となりかねません。さらに、ギャンブル依存も社会的な問題として、世の中に知られてきた依存症です。当センターでは、2011（平成23）年にネット依存、2013（平成25）年にギャンブル依存の治療研究部門を開設して治療を開始しました。国内外でさまざまな治療法が試みられていますが、当センターでは精神科医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士、地域の関連機関が連携を取り合いながら診療に当たっています。



WHO（世界保健機関）アルコール関連問題研究・研修協力センター

病棟名	種別	病床数	診療内容
1病棟	一般内科（開放）	45	アルコール依存症Ⅰ期治療（離脱治療） 肝機能障害などの合併症治療
2病棟	精神科（開放）	60	アルコール依存症Ⅱ期治療（酒害教育） ギャンブル行動症治療
3病棟	精神科 （閉鎖）	60	精神科慢性期治療 アルコール依存症、認知症
4病棟	精神科 急性期 （開放・閉鎖）	60	精神科急性期治療、ゲーム障害 統合失調症、気分障害、パーソナリティ障害
なぎさ しおさい	医療観察法	18 34	司法精神医療 統合失調症、アルコール性精神障害、 薬物依存症

精神科（統合失調症、気分障害など）

一緒に乗り越える充実感を共有しましょう。

精神科ではストレス性疾患、パニック障害、うつ病、統合失調症などの患者さんに対し、作業療法、生活技能訓練、季節の行事やスポーツなどのレクリエーションを治療プログラムとして行っています。

急性期病棟では、入院患者さんのおよそ60%が3か月以内で退院しますが、入院当初から社会復帰を見据え、多職種や地域の関連機関と連携し、地域で安心して暮らせるための支援に力を入れています。

当センターには、精神科看護を学び患者さんと深く関わりたい、コミュニケーション能力を発揮したいと思う看護師が多いのが特徴です。「疾患」ではなく「人」を見る、という本来の看護をするために、患者さんとじっくり向き合う。精神科ではそんな理想的な看護ができるはずです。

地域医療連携

「その後」を大切に、地域の皆さんとの連携を深めていきます。

精神疾患や依存症は、障害を抱えながら社会で生活できることが目標となります。そのためには、患者さんのご家族や地域で支援する方々との密接な連携が必要です。当センターの外來部門にある地域連携室が要となり、訪問看護やデイケアといった地域医療の支援を行います。

精神科医療も「入院医療中心」から「地域医療中心」へ移行しており、住みなれた地域でその人らしく安心して暮らせることが求められています。患者さんの生活に近い場所で働くことで、やり甲斐やモチベーションが生まれるのです。



Mission

先端の知見とさまざまな経験が、あなたのキャリアをつくりまします。

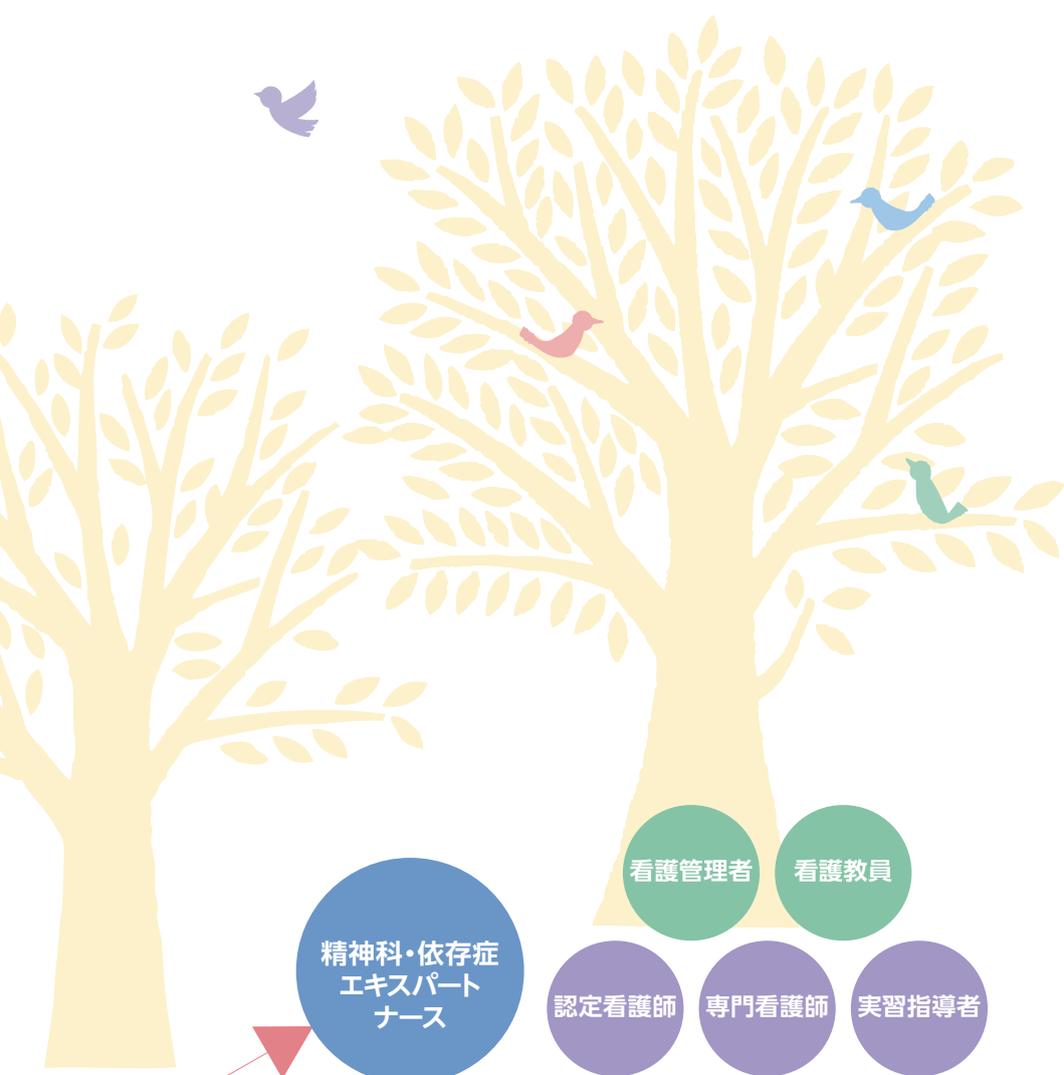
精神科の奥深さは、
自分の心も成長させてくれます。
心と心のつながりを大切に
しているのですから。

久里浜医療センター看護部は、「患者さまの心に寄り添い、患者さま自身が自律できる看護の提供に心がけます」という理念のもと、患者さんのありのままを受け入れ、その心を見ることを大切にしています。精神科・依存症医療のミッションを実現するため、自分たちに必要なことは何かを常に考え、スキルを磨くことが、キャリアアップにつながります。精神科エキスパートとなる道は久里浜から始まります。

久里浜医療センター 看護部教育体系図



主体的に学習し、目指す看護に向かってステップアップする



精神科・依存症
エキスパート
ナース

看護管理者

看護教員

認定看護師

専門看護師

実習指導者

キャリアアップ支援

エキスパートナース

インフルエンザなどの感染症で治療がストップしないよう医師や薬剤師などとチームを組んで管理をしています。万一発生しても院内感染を未然に防ぐのが任務です。病棟の仕事も兼務しているので、他のスタッフの力を借りながら務めています。

臨床現場の感染症のリスクを減らし、患者さんやご家族、病院で働くすべての職員も安心・安全に過ごせるよう活動しています。多職種と協働し、他の医療機関とも連携しながら院内の感染対策に日々奮闘しています。



感染管理
認定看護師



感染管理
認定看護師

糖尿病看護
認定看護師



精神疾患を持つ患者さんはその病状が食行動や糖代謝に影響することがあります。そのため精神疾患と糖尿病を併せ持つ人は少なくありません。患者さん自身が糖尿病の合併症予防に取り組み地域で自分らしく生活できるよう支援しています。

自施設は認知症疾患を有する患者が約3割を占めています。認知症認定看護師としてスタッフのアセスメント能力を向上させ患者さんに対し質の高いケアを提供できるようスタッフ教育に力を入れています。



認知症看護
認定看護師

入職から1年間の流れ

レベル I 看護実践に必要な基本的能力を習得する



勤務シフト

勤務種類	勤務時間		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 0																							
			[Visual representation of shift hours with blue and orange background bars and arrows]																							
日勤	8:30~ 17:15	7:45	[Visual representation of day shift: blue bars from 8:30 to 17:15, orange bars from 17:15 to 7:45]																							
準夜勤	16:30~ ~1:15	7:45	[Visual representation of evening shift: blue bars from 16:30 to 1:15, orange bars from 1:15 to 7:45]																							
深夜勤	0:30~ 9:15	7:45	[Visual representation of night shift: blue bars from 0:30 to 9:15, orange bars from 9:15 to 7:45]																							
2交替	16:00~ ~9:15	15:30	[Visual representation of 2-shift system: blue bars from 16:00 to 9:15, orange bars from 15:30 to 7:45]																							

精神科看護で大切にしていること

倫理的配慮

- ➡ 患者さんのおかれている立場を理解する。
- ➡ 患者さんを尊重した対応。



フィジカルアセスメント能力

- ➡ 精神障害のある患者さんは、自分から、身体症状を訴えられない。また、自覚できない方が多い。

医療チームで関わる治療

- ➡ 退院後の生活を見据えた退院支援。
- ➡ 地域と連携した在宅療養の支援。



患者さんとの深い
コミュニケーションに憧れて。

大学の実習で初めて精神科を経験し、少しずつ興味が増え、久里浜医療センターには同級生や先輩がいて、患者さんと深くコミュニケーションを取っているのがいいなと思いました。ここで働くことができるのを今では誇りに思っています。



人と関わるのが、
とても楽しいんです。



患者さんの話を聴いたりすることで、関係性がだんだん深まっていくことに魅力を感じました。経験豊かな先輩の手厚いサポートも魅力で、尊敬する上司に近づく努力にもつながります。あとは海の目の前という環境も抜群ですね。

Our House

オーシャンビューの環境に、毎日癒やされています

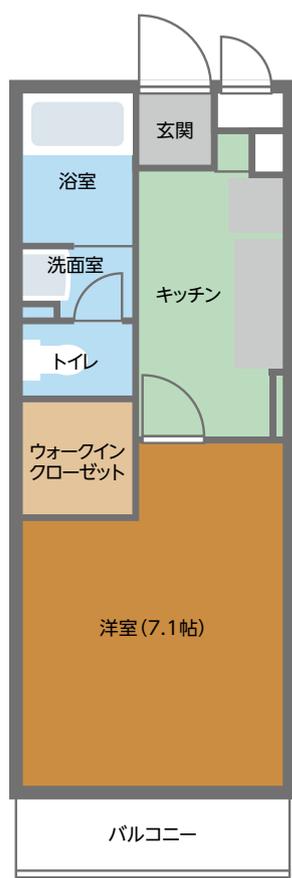


宿舎からの眺め



朝起きると、窓の外には太平洋が広がって。これだけでも魅力的ですが、職場が隣なので通うのがとても楽。夜勤の時も便利です。休日は同期を呼んでお喋りしたり、買い出しに行ったり。母も「ここなら安心」と言ってくれました。

職場に近く、
住環境も安心です。



間取り図

Nursery school

院内保育所を利用して
仕事と育児の両立ができるので、日々充実しています。



保育所内観



保育所外観

子育て環境は、ストレスゼロです。

今、3歳の娘がいます。朝、保育所に預け、終業後にお迎え。残業がないよう部署内で調整してくれるので、子どもとゆっくり向き合える時間が作れます。周囲の理解があり、産休からの職場復帰もスムーズでした。仕事と育児はストレスなく両立しています。





公共交通機関をご利用の方

- 京浜急行「京急久里浜駅」から「野比海岸」行 — 久里浜医療センター入口(15分)下車 徒歩1分
- 京浜急行「京急久里浜駅」から「久里浜医療センター」行 — 久里浜医療センター入口(12分)下車 徒歩1分
- JR横須賀線「久里浜駅」から「野比海岸」行 — 久里浜医療センター入口(15分)下車 徒歩1分

自動車をご利用の方

横浜横須賀道路・佐原ICより15分
 外来患者様専用の駐車場がご利用できます。



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

239-0841

神奈川県横須賀市野比5-3-1

Tel.046-848-1550(代表)

www.kurihama-med.jp



WHO [世界保健機関] アルコール関連問題研究・研修協力センター

当院はWHOから日本で唯一の
 アルコール関連問題の研修施設として
 指定されています。

